

平成の時代も25年  
 四半世紀の節目は  
**旭が森で初日の出!**  
**新春祈願は清澄へ**



**平成二十五年  
 新年に向けて**

月日の経つ早さをしみじみと感じられる昨今ですが、明年は平成二十五年となります。

平成の時代も四半世紀を迎える事となる訳です。例年とは違った一つの節目となる年度です。

この節目の幕開けを清澄で迎えて頂けたらと思います、大晦日から元旦にかけては、今年も行事が目白押しになっております。

どうぞ年越しは清澄寺でお過ごし頂きたいと山内一同お待ち致しております。



平成24年11・12月  
 合併号

発行所  
 〒299-5505 千葉県鴨川市  
 清澄322-1

© 清澄寺  
 TEL 04 (7094) 0525 番  
 FAX 04 (7094) 0527 番  
 振替 00140-5-55501

印刷所  
 天津 (有)ブラザー印刷  
 送料共1部100円

**お知らせ**

**12月**

27日 18:30  
 信行会(唱題行)

31日 19:00  
 除夜祭  
 23:35  
 水行式  
 23:55  
 除夜の鐘

**1月**

1日 0:20  
 一番祈禱  
 7:30  
 元旦祝禱会

27日 18:30  
 信行会(唱題行)

第七百三十一回 (十月二十七日)

御報恩お会式

本年のお会式は晴れわたる秋日和に恵まれ、ご来賓の大本山誕生寺様・本山鏡忍寺様・千葉南部宗会議員様のご参列を頂き、大導師に二宮別當、副導師には上村貞雄宗務所長・宮崎雅宣執事長、式衆に修法師会の御法助を頂き厳修されました。



法要の中盤では千葉県和讃連絡会百五名の皆さんによる和讃奉納があり、県内

各所からお集まり頂き、合同練習もわずかながら、その見事な奉詠にお祖師様もさぞお喜びになられたのではないかと思われました。



又、法要の終わりには、本願人推挙式が執り行われました。本願人とは、永年にわたる当山の護持顕彰に御尽力いただきました方々に、当山本願人規定に則り推挙されるもので、本年の推挙者は、

本願人 川田初子様  
本願人 行方千秋様  
の両名でした。

法要後、推挙されました方は、二宮別當と御宝前にて記念撮影をさせて頂きました。



行方千秋様と

尚、御寺院様教師で推挙されました方には、御本尊を御宝前に奉安し、お祖師様に御報告申し上げ後日來山の折授与させて頂きました。

授与者は、  
傳法寺 福岡玄舟様  
でした。

一方、和讃奉詠に参加の皆さんは、御会式法要終了後に、地元修法師会による修法加持を身命に受けられておりました。



法要関係が全て終了致しますと、三浦市延寿寺(大森常隆住職)万灯講の皆さんが参道(境内へと、賑やかに万灯行列を行ない、清澄のお会式に華を添えて下さいました。

延寿寺様は、毎年参列され当山と致しましては大変有り難く存じております。



唱題行

午後七時からは研修会館にて、お檀家と参籠者が道場集い、唱題行(大森執事補導師)を行いました。



暁天法要

翌日早朝には、旭が森の暁天法要にて旭日遥拝、そして朝勤に参列され参籠者は下山されました。



# 鴨川市で初の『薪能』が

## 清澄寺で開催された

たぎのう

十月七日午後六時より当山に於きまして、「一般社団法人・波の伊八鴨川まちづくり塾」主催、「NPO 法人せんす」による『薪能』が上演されました。

当初会場を当山境内に予定しておりましたが、天候不安定のため会場を信育道場内に変更して行われました。

能楽を一目見ようと、五時の開場前には百人を超す方々にお並び頂き、六時の開演には四百人もの人々にお越し頂きました。

開演に先立ち、片桐有而鴨川市長、当山宮崎雅宣執事長のご挨拶がありました。

第一部の演目は、主人の言いつけを守らなかった家来が、慌てふためいて言い訳をする、狂言『附子』で、開演直後ざわざわとしてい



た堂内も、狂言師の第一声に圧倒され、静まり返る程の迫力でした。

笑いの演劇である狂言は、どこか憎めない登場人物のキャラクターに、共感さえ覚えてしまう様な滑稽さが、観客を魅了し自然と場内からは笑いが起こっていました。

第一部終了後、二十分の

休憩があり、第二部の演目は、能『鶴飼』が上演されました。『鶴飼』は、日蓮聖人を題材にした演目で狂言と違い、面(おもて)をつけて演じられる能は、想像力を掻き立てられました。そして、面をつけた閻魔大王の舞は、鬼気迫るものがあり、息をのむ内容でした。

終了後は暗い夜道ではありましたが、演目についてお話しながら楽しそうに帰られる皆様のお姿に、改めていつの世も人々を魅了する伝統芸能の素晴らしさと奥深さを実感致しました。



### 日蓮大聖人御像のお衣 並に

#### 仏器新調奉納のお願い

清澄寺の歴史と共に歩んで参りました祖師堂ご奉安、徳川家康公側室お万の方ご奉納、日蓮大聖人御尊像のお衣、並に、毎朝朝勤時、日蓮大聖人並に虚空蔵菩薩にお仏飯をお供えする仏器の、傷みや欠けが目立ってまいりました。

当山では、

お衣 四十万円  
仏器二膳 二十万円

口一万円で勸募をお願いさせて頂く事になりました。

(一膳あたり約十万円と なります。)のお品を新調すべき時期と考えております。

そこで、皆様の日蓮大聖人、虚空蔵菩薩へのご奉仕、ご丹誠の御心をたまりたく、この度、一ます。

## 甲府十二日講 年参

講元様の代理をおつとめになりました。

当山に年参されております、甲府十二日講(山梨県甲府市 高野とめ子講元)一行十四名の方々が十月二十日参籠されました。高野講元様は都合で来山出来ず、ご子息の高野正幸様が

当日は良雲寺・顕本寺様の度牒団参と重なったため、翌日の旭日参拝は度牒団参と共に参加され、朝勤参拝は度牒交付式と並行して摩尼殿にて宮崎執事長導師による開帳。交付式終了後祖師堂へ移動し、二宮別



# 度牒団参相次ぐ

◎九月二十九日～三十日

▼神奈川県小田原市

妙泉寺 石井辨英師徒弟

南雲明子さん(六十歳)

橋本千鶴子さん(六十七歳)



◎十月二十日～二十一日

▼新潟県上越市

良雲寺 海老要晃師徒弟

海老晃太君(十一歳)

▼新潟県上越市



當御挨拶の後、祖師堂の開帳を受けられました。いつもの参籠とは違って戸惑いもあったかもしれませんが、「良いご来光が拝めた」と喜びのお声を聞くことができました。来年も講中皆様がお元気で参籠されるのをお待ちしております。

顕本寺 西山要敬師徒弟  
西山湧輝君(十八歳)

九月は女性二名、十月は二ヶ寺合同の度牒交付式と、度牒団参制度ができてより、女性二名、二ヶ寺合同の度牒交付式は初めてのことでした。

度牒団参の日程は通常の度牒交付式と同じ流れですが、檀信徒に見守られる中で行われますのでとても感慨深いものがあります。信育道場での開会式が終

わると檀信徒の皆さんに見送られて度牒生は祖師堂へと向い、一時間半にわたる法式実習が行われました。少し緊張した様子の度牒生はまず合掌、正座、礼拝の仕方を学び、次にお自我偈の読経試験に向けて読み方、声の出し方を学んでいました。(右下写真)

法式実習後は宮崎執事長が試験官となり読経試験が行われました。度牒生は各々気持ちを入れて読経し見事合格しました。執事長より僧侶になってからの心構えを交えながらの講評が



ありました。

度牒生が実習を行っているのと同時に檀信徒の方々は御題目写経・諸堂参拝をし、度牒生と合流したのち、摩尼殿にて大聖人祈誓虚空藏菩薩の開帳を受け、夕食後は法話・唱題行と充実した一日をおくられました。

翌日は早朝より、旭が森での旭日遙拝。どちらの団参も厚い雲に覆われておりましたが、一心にお題目を唱える姿を見てか、諸天のご加護か雲が切れ、光り輝くご来光を拝することができました。大聖人がお題目

を始唱したこの場所で唱えることができた喜びを感じる旭日遙拝でした。

それぞれご来光を拝した喜びを胸に、厳肅な空気の中、別當大導師のもと祖師堂にて度牒交付式が厳修され、檀信徒に見守られながら度牒交付を受けた度牒生は仏祖三宝にこれからの行学二道を精進することを誓いました。

## 談話室

先日、小松原法難七五〇年前会法要が、本山鏡忍寺様で盛大に、且つ今までに無い特別な形式で法要が行われました。

明年二十五年は小松原法難正当七百五十年です。

どうぞ、鏡忍寺様お参りの折にも、房総の秘境地清澄にもお参り頂きたく存じます。

これから本格的な寒さに向かいます。くれぐれもご自愛の程ご祈念申し上げます。